

令和元年度第1回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

1 開催日時

令和元年8月28日(水)午後3時30分から午後5時45分

2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

3 出席者

(1)政策総合会議委員 15名(4名欠席)

① 地域住民代表委員 15名

青木委員 石本委員 尾崎委員 兼松委員 小林委員 酒井委員 坂本委員 武市委員
永本委員 橋本委員 濱高委員 林委員 平井委員 藤田委員 町田委員

② 県委員 1名

岡田南部総合県民局長

(2)管内市町長 4名

岩浅阿南市長 坂口那賀町長 枅富牟岐町長 影治美波町長 三浦海陽町長

4 会議次第

(1)開会

(2)議事

①徳島県南部圏域振興計画(案)について

②南部圏域課題解決プラン(案)について

(3)意見交換

(4)閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 令和元年度第1回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料1 徳島県南部圏域振興計画(案)の概要
- ・ 資料2 南部圏域課題解決プラン(案)の概要
- ・ 資料3 徳島県南部圏域振興計画(案)
- ・ 資料4 南部圏域課題解決プラン(案)
- ・ 資料5 徳島県南部圏域振興計画(案)に係るパブリックコメントの結果概要について

<発言概要>

(A委員)

よろしく申し上げます。Aでございます。それでは、今、事務局さんからいろんな説明を受けて、本当に、振興計画 4年間経過して、新たな時代のいろんな課題を踏まえて、きれいに特に、資料1を見ると、作っていただいて、大変感謝申し上げます。私の方からは、意見としては、3点ございます。

まず、1点目でございます。皆さん知ってのとおり、広域観光ですね。特にDMO、四国の右下観光局を活かした取組みへの充実が、県民目線、市民目線から見ても、まだまだ必要なんじゃないかというふうに感じております。特に、世界的なイベントが今年からあるのはご存じのとおりだと思います。ラグビーワールドカップ、また、来年は、東京オリンピック、パラリンピック、そして、2021年には、関西ワールドマスターズゲームズというふうに、内外に示すチャンスでもございますので、この資料1にも書いてありますとおりの観光からつなげる視点というのは、イベントと繋げていくやり方、それと、国際大会としっかりと結びつけていき、インバウンド、また、それと関連する関係人口を増やしていくというのが今の地方のやり方の主流だと考えております。当然、南部圏域におきましても、未知なる未来のためには、必要不可欠と言うことで一番に挙げさせていただきました。

次に、2点目でございます。2点目は、私何度も発言させていただいております。次世代地域公共交通ネットワークの構築に向けてでございます。

DMVに関しましては、新しい車両が来て、イベントとか、実は昨年、私も試乗とかいろいろなイベントにも参加させて頂いております。やはり、南部圏域の次世代公共交通ネットワークの構築というのは、やはり、大変必要性があります。是非とも、今回のDMVを契機に、県南部のあの地域だけでなく阿南市や那賀町、美波町、南部圏域すべてにおいて、次世代地域の公共交通ネットワークという構築、これは、JRからもいろんな資料が出ていましたし、足として特に高齢者、または学生においても、足がないとやはりその地域に住みたい、暮らしたいといっても、足がないよと、よく話を若い世代から聞いております。是非とも公共交通に関しましては早めに、検討会もしくはタスクフォースレベルでかまいません。これは南部圏域で必ず立ち上げを要望したいと考えております。それが2点目でございます。

3点目でございます。3点目は、どうしても課題解決の中でも一番に必ず挙げられています。ここに、帽子を持ってきております。阿南防災士の会、私、副会長もさせていただいております。やはり、自然災害における対応策、これは必要性を増してるのは事実でございます。そしてソフト面は南部、部長もおられるんですが、いろんな施策を県南ほんとしていただいて、僕はソフト面は充実していると、逆に先進だと考えております。実は去年、阿南社会福祉協議会の第二陣で、西日本豪雨のありました倉敷の体育館、5つ程回らせて頂きました。何が言いたいかと言いますと、初めてソフト面以外でお願いという言葉を使います。避難所である小中学校の体育館、やはり猛暑、これは確か県議会の方でも誰かが意見をされてたと思います。県立体育館はじめ、各市町村の体育館に冷暖房化というのを、メインアリーナに必要だと、これは防災活動を私、最前線でさせていただいて思っております。今年も正直、阿南市の長生町で防災教室をお盆の日にやりました、もう暑くてたまりません。やはり正直なところ。これはもう、どうしても予算という意味合いで必要性が増しております。私は、政治家ではございません。委員でございますが初めて、お願いです。冷暖房化というのは、当然必要だという風に本当に感じております。これは気温の上昇、また、いろんな創意工夫をしても避けては通れません。正直なところ、これにおきましては、徳島県の方でも、予算をいきなり取れと言っても無理

なことはわかっています。ですから、まずは、西よりも南にモデルを作っていただいて、南の沿岸部、南から必ず、小中高、管轄は違いますが、避難所の小中高の体育館に冷暖房の常設の設備化を切にお願いを申し上げます。

最後に、多言語化をいつも言っておりますが、実は徳島県の国際交流協会で、パンフレットを作ったのをいただきますと、いろんな避難の初動からまた避難所の運営に関することまでいろんなことをしっかりと国際交流協会が作っております。いろんな言語、これからの時代やっばり、英語だけでなく中国語はじめ、いろんな言語での表示というのは、これから防災に関しましては必要性がますます増してくる。そういう風を感じております。わたくし活動の中で実は阿南国際交流協会に最近入って日本語教室で教鞭をとっております。その中でもやはり防災、防災しっかりと伝えていきたい、だけど伝えるには私英語は少ししかできなくて中国語やいろんな多言語ということとなると非常に勉強しなくてはいけませんのでこういうのを作っていただくと助かります。それともう一点は、避難訓練するときにですね、これも作ってほしいんですが、音ですね、大津波警報であったり、地震の警報であったり、音を訓練でいつも学校教育で使ったりします。結構ですね、ユーチューブであったりいろんなところで繋ぎ合わさないかんのですね。ぜひとも徳島県には訓練用でかまいません、地震のときの警報と大津波警報と音を集めた訓練用のCDか何かを作ってください。それを各自、自主防のリーダーにお渡し願って、災害の訓練に活用するように よろしく願いいたします。

最後、番宣だけさせていただきます。まずは阿南市の総合防災訓練が実は10月の14日、私の地元新野町であります。今日の公民館報に 新野町内全部配りました。公民館報に出ております。これには以前から私も関わらせていただいております。シームレス民泊推進協議会も参加をさせていただいて、災害時はしっかりと避難所、平時は民泊というのを訓練で披露したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今日の阿南広報にもしっかりと徳島県総合防災訓練、9月1日ですね、いよいよ近づいてまいりました。これもしっかりとPRをしておきます。今回は、徳島県と阿南市と主会場と副会場という風になっております。私の本業であります、福祉避難所のほうも緑風会ルネッサンスのほうで解説をやられるということでございますので、多種多様な今回の訓練メニューだというふうに考えておりますので、しっかりと県民の皆様、また住民の皆様に防災というのを教育、またPRしていただければと思っております。以上でございます。

(B 委員)

こんにちは。Bです。よろしくお願いいたします。えっと南部振興計画の分なんですけどもP18に医療提供体制の構築の中で、やはり長期療養型の病床が、名前が入っておりません。やはり南部圏域には、長期療養型ありません。やはり、県の開業院がするべきだと思っております。それと、もう一つは住民の命を守るための救急医療体制なんですけども、やはり、まだ里帰りした、この夏にあったんですけど、直接私の方に電話があったんですけど、やはり、南部圏域には、小児科が個人にはあるんですけど、日頃、開いておりません。それが、県立と公立の病院で手を結んでいただいたら一番いいんですけども、それが結んでいただいてなくて、たらい回しって言うたら失礼なんですけども、それがありまして、直接電話して、見ていただけるようにはなったんですけど、やはりその中でも、住民の常日頃の命をしっかりと守っていただいておりますけども、やはり地元に戻った時に1番困るのが病気をした時だと思うんですけど、その体制にも南に行ってもきちんと診てもらえたねっとそうゆうのが全ての住民の命を守るための救急医療体制になると考えております。その中に小児科に関しましては「#8000」。直接、「#8000」を回しましたらワンテンポ置いていろんなアドバイスいただけるんですけども、全体に行き届いておりません。そういうのがあるにもかかわらず、やはりこの文言が入っ

ていない。それと災害に役立つ「阿波アイネット」、これも病院関係では進めておるんですけども全体に普及していない。といことは、この文言どこ探しても入ってないんですよ。やはり私たちと「地域医療を守る会」では「阿波アイネット」が大事なんですと劇をして勧めております。そういうのをしていたら、もしもの時に、お薬手帳がなくてもスムーズに見れると、お医者さんも少ないので凄く助かる。そういうやはり文言を、これからは課題解決プランに入れて欲しいなと考えております。

次の「四国の右下ファン」の分なんですけども、やはりに「ぎわいと笑顔あふれる地域づくり」、昨年度までは、英語版サマースクールを5年間、県の補助でやって来たんです。だけど、今年は県の教育方針が違う言うことで外れたんですけども、5年間頑張っ、住民もずっと昼食の準備とかしてたんです。それでファンが多くて、大学生が卒業した子が総務省に入ったら、やはり「南部はいいね」というような推進のお言葉をいただいたり、牟岐町ですけども一人、大学生の子が中学校高校生を引っ張る力もついてきました。しかしながら、やはり補助の関係もありましようけれども、「右下ファン」を続けさせるのであれば、県も本腰を入れて外国の方も来ております。その方も2年、3年と続いております。といことは、南の人というか、地域性というか、それに惚れ込んできておりますので、そこらをしっかりと長い目の教育的観点で進めていただけたらと思っております。

最後になりましたけれど、これは医療に関することなんですけども、やはり住民は本年度も病院局と健康増進課の一応、県の方には2本立てがあるんですけど、自治医大と徳大、これ派閥かなんか住民にはよくわからないんですけど、両方をお願いにいかないといかん不自由さがあります。これをスリム化してやはり一本化していただいて、そこに、自治医大、徳大のそれ派閥はあろうかと思いますが、住民の命を守る観点からすべてのことを考えてほしいと思うんです。そうしないと、専門医員がない所には学生を出せないというような断り方をされたこともありますけども、そこらをしっかりと県知事も来ておりますので、トップの方が一本化していただいて、10年前は本当に、塩谷先生が頑張っ、いただいて赤字経営からこうしたんですけど、その以後は、住民がこのようにしたらいいねと言うようなことを両方の方に聞きに行かないかんと言うのはちょっとおかしいなと住民側からは思うんですけども、検討していただいて、徳島県の病院すべて公立の病院をまとめていただくにはどのようしたらいいのか。是非、+α普通の開業医であれ、みんなで力を合わせて、やっていかないと、たとえ、医師数が多いと言っても数だけの面で、実際に動いている先生がいないんですよ。そこらあたりをしっかりと踏まえて頂いて、ここをどうにか、この窓口にあげれば沿って上がっていくと言うような取り組みを図っていただきたいなと住民側からのお願いなんです、よろしくお願ひします。

(C委員)

失礼します。Cです。よろしくお願ひいたします。振興計画の4つのキーワードは、「つながり」、「支えあう」、「まもり、伝える」、「育て、生み出す」といった4つのような気がするんですけども、その中でやはり、つながる支え合うという中で災害ですね、こここのところ今日もだいぶ長崎あたりで雨の被害が出ているみたいなんです、道路の浸水というのが一番問題になるんでじゃないかなと思っております。災害があった場合に、避難するのにも動けない、急病人が出てどうしようもないという状態になりましたら、道路が1番ではないかなと思う中で、やはり再三再四、お願ひしております畑田川の河川の改築というか、幅を広げなければ、今現在の幅ではどうしようもないと言う状態に来て途中で不安が募るわけなんです。地域住民としては、その辺やはり、早急に県としても畑田川の改修というのが40年以上もかかって、未だに進捗が進まないというところが問題なんではないかなと思いますので、是非、知事も知事会長さんという偉い立場になられて、指導する立場と思ひますので、是非、地域のほうもその辺よろしくお願ひしたいなと思っております。

それとトクシマというやはりあの知名度が低いというか、全国的にどうしても、なかなか徳島がどこにあるのか、四国の4県の中で、高知あたりが徳島と思っている方がいたり、愛媛あたりが徳島と思ってる方がいたり、なかなか地域の場所を確認していただけることがなかなか少ないんですね。その点、阿波踊りっていったら全国的に阿波踊りはどこに行っても最後に踊るみたいなのところがあって、踊りだけが先行して地域を広めているところがあるのですが、現実の問題として、徳島を訪れてくれる観光客はそういう意味で非常に少ないんじゃないかなと思います。是非ですね、飛行機をですね、もうちょっと路線を増やしていただけたら、本当に、東京と徳島の間だけではなかなか観光客を呼ぶ引き寄せるといのは国内のお客ですね、少ないんじゃないかな。夏にですね、地元仙台、私仙台なんですけど仙台から親戚を呼ぼうと思ひまして、是非徳島を案内するから来てくれと言ったら、予定を組んでくれたんですね。10人近くの間人が。そしたら徳島にいたのがたった3時間なんです。どうしてそんなに少ないのと聞いたら、結局、JTBあたりの観光会社に申し込んだら、徳島という知名度が少ないせいかもしれないんですが、観光地がないということで、すぐに観光地のある道後温泉やら、向こうの方に行かれてしまって、どうしたん、地元の私にどうして聞いてくれんのつと言いながら、そういうことがこの夏の話なんですけどもあったんですね。やはり、もうちょっと大型の旅行会社に対してですね、観光のPRをもっとしていただきたいと思うんです。南部であれば、千年サンゴっていう素晴らしいサンゴ、全国的に見ても、世界的に見てもこんな見れないのよと親戚のものに、口を酸っぱくすると言ったんですが、結局は、そこは、観光会社の中にそれは入ってなかったと言って、飛ばされてしまって、徳島という地域を飛ばされてしまって、非常に寂しい思いをした、この夏だったんですね。是非、知事さんにその辺も、やはり、飛行機の路線の拡大をお願いしたいなと思います。関西、大阪ですね、大阪まで飛んでも、大阪ー徳島、それ、もう飛んでないんですよ。私、仙台に帰るのに、高速バスで4時間かかって、伊丹まで行って、それから、大阪伊丹から仙台に飛ぶという方法しかないんですね。それがベストな方法なんです。新幹線使ったら時間もかかるし、荷物を持ってたら無理ということで、そういう意味でも、路線の拡大をお願いできたらと思います。

それと、農業を取り巻く環境なんですけれども、鳥獣被害が酷くて、何も作れません。田んぼの中には稲の中に猪は入るわ、畑は鹿で荒らされるし、もうほんとに大変な状況になっております。その辺ですね。県として、捕獲していただく方達の養成をぜひお願いしたいなと思っております。

それと、最後になるんですけども、持井の橋がですね、子供達の通学路になっているにもかかわらず、歩道橋がなくて、非常に狭い道路になってますので、その辺ですね、検討していただきたいというのが地元の声ですので、持井の橋をですね、古庄の橋ぐらいの歩道橋なり、自転車道路などをつけていただいたら幸いかなと思っております。最後にお願いになってしまったんですけど、よろしくお願いしたいと思ひます。

(D委員)

Dと申します。前回お話しいただいた意見と重なってくると思います。少し掘り下げまして、2点ほど、インバウンドも含めた南部地域の観光客、交流人口の増加策ということでお話しさせていただけたらと思います。

まず一つは、阿南市民会館の今後に関してでございます。阿南市の主要公共施設であります、阿南市民会館は、耐震に問題がありまして、現在は使えなくなっております。

芸術文化的な催しは、人々に感動や生きる喜びをもたらす、人生を豊かにするものであると同時に、交流人口を拡大し新たな需要や高い付加価値を生み出し、地域経済を活性化する上で大きな力となります。阿南市内には富岡町に文化会館夢ホール693席と羽ノ浦町に情報文化センターコスモホール550

席がありますが、多人数のコンベンション等を開催する場合には難がございます。現在、阿南駅周辺には、来春オープンのホテル2施設も合わせますと、700室を超える部屋数があり、諸団体の西日本大会、または、中四国地区大会なら誘致できる能力が十分でございます。大会後にエクスカージョンで那賀町へ、そして、海部郡3町へと魅力ある海・山・川の自然と歴史に裏打ちされました地域に根ざした伝統文化、食材の宝庫として、地産地消の伝統食を味わえる魅力も十分でございます。

しかし、観光という括りで考えた場合、現状ではハード面においても、ソフト面においても、磨き切れていないのが県南の状況であり、交流人口の増加に寄与するコンベンションの誘致は必須であり、大規模なイベント開催は、県南振興におきましても、大きく寄与するものであります。市民会館の建設に関しての市の方では、現在、検討頂いていると伺っておりますが、建替えの際には、那賀町・海部郡3町も有効活用でき、県南1市4町の地域振興に結びつく1500名から2000名規模の「仮称：徳島県南部県民会館」を、JR阿南駅周辺に建設いただけることを熱望致しております。県と致しましてもご指導の方、よろしくお願い致します。

もう1点としまして、一般社団法人四国の右下観光局の呼びかけによります1市4町観光事業者の資質向上策、研修会・意見交換会の開催でございます。

文化・スポーツの大規模なイベント、IR誘致を含めまして、関西地域を主会場として、近年に開催されます。県南振興において、もしかすると千載一遇のチャンスかもしれません。しかし、阿南商工会議所内のサービス業部会の会員も含め、県南観光事業者は、インバウンド誘客策を含め情報収集さえ、十分でないのが現状でございます。

一般社団法人四国の右下観光局を主幹事とし、県南1市4町の観光に携わる者が現状を把握できる研修会、意見交換会を行い、個々の事業者の資質を高めたいと考えております。無い物ねだり、また、行政からの支援を願うだけでなく、今ある観光資源を最大限に活用し、情報提供、情報発信のツールを選択しながら、1市4町で競うのではなく、各市町村のストロングポイントを活用し、広域での誘客を図ることが必須となります。一般社団法人四国の右下観光局の呼びかけによります、学びの場・情報収集の場・実践の場を提供ください。以上でございます。

(E委員)

県の移住窓口のコンシェルジュをやらせてもらってますのと、それと、美波町の移住の現場でやらせてもらってます。最前線の移住の話を、今日はさせていただきます。

資料1に目指すべき将来像に、2060年7万5千人から8万5千人とでてますけども、これ40年後ですね。いくら頑張っても、私死んでます。これ、続けてこつこつとやらないといけない大事なことだと思います。今、最前線でいいますと、Uターンがめちゃくちゃ増えてるんですよ。今、Uターンいうたら、ガチに、その生まれ育ったんではないんです。ちょっとでも関係人口とまで言わなくてもいいんですけども、おじいちゃんが徳島におったとか、墓あるとか、ちょっと勤めてたとかって言う方が、移住相談の窓口には、ものすごくこられているんです。それって、めちゃくちゃありがたい話なんです。全く、徳島のことを知らずにいらっしやると、徳島のことわからんのですね。特に、東京在住、まるで東京育ちの方は、田舎に個人情報がないと言ってもわからへんのです。虫のこととか、なんでもかんでも大変なんで、それで、少しでも徳島に愛着があつて、徳島に移住したいって言う方を逃さず、各市町の今日はいらっしやってると思うんですけども、逃さないようにしていただきたいというのがあります。

6次産業ですね。相談に見られた方が農業、水産業、漁業、林業といわずにこの頃、やっぱり、農業は最後まで人気です。ただ、農業というのは、米もあれば、きゅうりもあれば、オクラ、ケイトウ

と、この6次産業は非常にありがたいですよ、すごく移住者に勧めやすいんですよはつきり。これをやるといいですよ。海陽町のきゅうり塾なんか、ものすごく効果あげてますので、是非、続けて頂きたいのと、那賀町のケイトウとかオクラ、はつきりとした進路のある6次産業化された農業を展開していただくのが、移住の拡大に繋がっていくと思っています。

それと、移住してきたら待ってるだけでは絶対だめです。今、待ち受け移住なんて、とんでもないです。それと、移住者は、ものすごく変化しているんですけども、2回目移住が始まっています。1回目、10年前に1回目の初め（移住）の方達が、そこで居ずに、そこで住人と呼ばれている方が、その移住を踏まえて、第二段階に進んで、さらに、良いところに移住したいと言う方が増えてますので、特に、寒いところにかかれた方が徳島目指してこられてます。北海道、東北に行かれた方が、寒いのは無理といって、お年を召して、だんだん年をいつてきたら、暖かい徳島、凍らない徳島、西部の方にはお気の毒なんですけども、そういつて移住してこられてますので、そういつたことも踏まえて、それと来た方を、絶対に困らせないように、県も市も町も、移住してきたらほったらかしじゃだめですよ。絶対に、丁寧にフォローしてください。昨日も、交通事故でひっくり返ったってお電話があったんですけど、美波町の方ではなかったんですけども、その方にも丁寧に対応して、その市町にお願いして、対応して頂くようしましたので、ほったらかしにしないようにして下さい。

それから空き家なんですけども、災害がものすごく増えております。雨の降り方が異常なんで、必ず屋根やられてますので、すぐに住める空き家も、どんどん減っていつていますので、さらに、空き家の取り組み進めていつていただかないと間に合わなくなると思いつてますので、是非、よろしく願いつたします。

(F 委員)

Fです。よろしく願いつたします。私は、第4章の課題解決の中に「致命的災害を負わない速やかな回復をするしなやかさ」とこいつう風に書かれておいつますが、さすがにいい言葉と思いつます。これはやっぱり、この内容といえ、事前復興を確実にいつて、備えることが大切でないかと思いつます。これは、強靱化し、オールラウンド、地区で皆さんと取り組んでほしいと思いつます。よろしく願いつたします。

次は、課題解決プランのことですけども、臨時情報の件があまり書かれてないみたいですけど、美波町では、臨時情報に關して訓練をやりました。やったけど、県の方にも来てもいただいつてやったけど、大変課題がある臨時情報だと思いつます。やっぱり3日も1週間もどうするんやろかとその問題を皆さんがいつてますし、1週間も置いてもらいつよう施設がないなど、それも1つの課題ですので、研究とか検証したいと思いつます。

以上なんですけども、ちょっと、私は部外の話なんですけども、人権擁護委員もやっけるんですけども、最近いじめがたくさんあり、子供の自殺がある。「プラン4」に「デートDV防止」と書かれておいつますが、これは、私、阿南人権擁護委員は、いつも学校に回ってお願いつしに行くんですが、なかなか学校側が、あんまり反応してくれないところが多いので、これも県教委と話し合いつながら進めていつて、子供の幸せを助けるのが、大人の役目やし、人権擁護委員の役目と思いつてます。最近これに氣がついつて、発表させて頂きました。

(G 委員)

Gです。よろしく願いつたします。私は、今、阿南市の阿南高専の方で阿南市の生物多様性の地域戦略の策定に關わっておいつまして、この秋に、生物多様性の地域戦略、阿南市版が策定される予定とな

っております。基礎市町村、阿南市レベルでのそういった戦略の策定は、四国では初めて、中四国でも3番目という自信を持ってですね、先頭を切っていくつもりで関わっております。その中で、阿南市は生き物を守って、それを継承してだけでなく、それを活用することによって、まちを元気にしていくということを基本戦略に書いております。この圏域の中で何が大切な、今ある貴重な財産は何かというと、豊かな自然だと思いますので、徳島県の南部圏域の取り組みの中でも貴重な財産でもあり、すべての基盤である自然の資源をですね、守り、活用していくという視点を盛り込んでいただけたらと思います。

私が今関わって勉強している中で、是非、やったらいいなと思うのが三つありまして、一つ目が自然の機能を活用した防災グリーンインフラの取り組みと、生き物をテーマにした自然資源を活用する観光ですね。今、外国人の観光客を、是非、取り込みたいと徳島県の戦略にあると思いますが、特に、欧米系の観光客は、四国の徳島の西の方、日本の故郷へどんどん流れておりますけども、環境省の方からは、外国人観光客は、世界にいない、日本にしかいない、生き物を探しに行くツアー、オオサンショウウオを見に行こうとかそういうツアーの人气が上がってきている。徳島県南部圏域は、生き物の宝庫であって、実は、その情報がまだ皆さんに知らされていない、そういうところに、是非、着目していただいて、コンパクトでマニアックなツアーを、是非、南部圏域で展開できればと思います。

それと最後にもう一つ、やはり自然エネルギーの活用をしたまちづくりということで、この羅針盤の中の一つに入っている産業ですね。産業には、今後、自然資源を活用したエネルギー、南部圏域、広域で取り組んで頂きたいと思います。是非、よろしく願いいたします

(H委員)

よろしく願いいたします。もみじ川温泉、那賀町のもみじ川温泉で勤務させていただいておりますHと申します。この資料をちょっと拝見いたしまして、率直な感想としましては、この1~5の戦略がすべて連携してくるんだな、理解しておるんですけども、正直、私が従事しております仕事というのは、「2世界を魅了する観光地域づくり」であつたりとか、観光に関する部分が1番やっていかなければ行かない部門だなと思ってるんですけども、先ほども意見が出たんですけども、各市町のキーマンが集まっての話し合いが持てる場、四国の右下観光局を軸とした広域観光への取り組みっていうのは、正直、これからどんどん増やしていただきたいなと率直に思っております。というのも、那賀町で働いておるんですけども、那賀町内でいろいろイベント等は頑張っって、毎年、やってはおるんですけども、その中で、お隣の美波町、海陽町であつたり、阿南市もそうなんですけども、なかなか情報を得ようとしてるんだけども、なかなかその情報が入ってこないというのが、現状でして、もっとアンテナを貼らなければいけないんですけども、もっと強制的に、その各市町のキーマンが集まって会議ができるとか、意見を出し合っって、この日この時にそういうイベントやっってしまうという会であつたりとかイベントが、今後、増えていったらいいんじゃないかと思っております。

観光というのが、1番最初に地域を訪れて、そこで場所を見てみたり、自然に触れあつたりした中で、結局、最終的に、その移住につながっていくとは思っております。移住が、地域にとって1番ありがたいのは、重々、理解しておるんですけども、県南部とか、特に、那賀町のような山間部では、1回観光や見学に来られた際に、他地域にない良さをPRできない限りは、なかなか移住と言う決断に踏み込めないというのを、正直感じております。それは、本当に、地元の我々の民間で働いている人間からしても、地域の住民がもっと魅力をPRするために、アイデアを出していかないとならない思っています。何が売りなのか、何を魅力と思ってくれているのか、ポイントは何なのかを理解していく必要があるのかなと思っております。

もう一つ、それに伴ってなんですけども、インバウンドのお客さんが、最近、やっとな南部の方へちょくちょく来るようになりまして、まだ祖谷の方だったりとか、美波町や海陽町の海のほうに比べれば、まだ那賀町は少ないんですけども、そういったお客様にインバウンドのお客様に来てもらうために、我々ちょっと、個人の旅行会社さんとかと話をする機会があったんですけども、そういった時に、一つ面白いことを言っておったのが、中国の富裕層という家族、家族単位でお客様引っ張ってくるんですけども、何に魅力に感じて、徳島県の県南部にこようと思うんですかってこと聞いたときに、日本の昔の田舎の普通の生活、当たり前前生活を体験したいということをおっしゃっておったんです。面白いことをやったりとか、外国人に受けるのは何かと考えるのも一つなんですけども、今、ご飯を炊いて、夕方に街のチャイムが鳴って、家に帰って来て、ご飯を食べて寝るという昔の昭和ぐらいの日本の生活というのを望んでいる。それを体験してみたいというお客さんがいるという聞きまして、目から鱗というのがありましたので、そういったニッチな所にも、インバウンドを誘致する需要がなるんじゃないかと思っております。そういったところを例えば、大手旅行会社に売り込むのも必要なんですけども、そういった個人でやられている旅行会社さんに補助であったりとか、もう少しサポートできるような体制を、県ないし、行政の方で取り組んでいただければ、少し違った展開も生まれてくるのではないかと思っております。ちょっとあちこちへ行ってしまいました。私の感想としては、以上です。

(I 委員)

I と申します。よろしくお願ひします。今回初めて委員に選ばれましたので、頂いた資料をしっかりと読ませて頂いて、その意見までないんですけども、計画案とか、プランですとか、大変、県南にとって、いっぱい良いこと書いてあるんですけど、失礼ながら、人が過疎化で、人が足りないと思うんです。四国の道を、お遍路さんの道を、世界遺産にだって頂けるんですが、県道にしても、国道にしても、日和佐から牟岐まで行く国道なんか、草がいっぱい、刈ってないんで、お遍路さんが歩きにくくて、国道の車道に出て歩いている方がたくさんいらっちゃって、以前でしたら、県道にしても、土木の方がトラックに乗って4、5人で、毎日、見回って頂いていたんですけども、今、美波の方では、車1台に4、5人乗って、後、悪いところを建設業者さんに直して頂いて、知事さんも、白い灯台でお泊まりになった時に、朝よく県道を走られている時に、両脇が草でいっぱい、走りにくいかなと、車が通ったら走りにくいのかなと思います。そういう所からでも、公務員さんをもうちょっと増やして頂けたら、人口が増えるんでないのかなと思っております。今いらっしゃるボランティアさんだけでは限度があって、無理なんで、町の職員さん、県の職員さん増やして頂いて、回って頂けたらありがたいかなと思います。

私、今回初めて参加して、若づくりしてるんですけど、古希、70歳になります。選んで頂いたのはありがたいのですが、50歳ぐらいまでの、意見をいっぱい持っている若い方々を委員を選んでもらっても良いのではないかと思いますので、その点、よろしくお願ひします。

後、先ほど、川の拡張とかいろいろ意見がありましたけども、おかげで、日和佐町は、50年も前でしたら、土手が崩れて、田んぼが水浸しというのがありましたが、おかげで、大変整備できてまして、川なんか、1時間100mmの降雨量では、日和佐はなんともないくらい、安心な町にはなっていると思います。町長さん、知事さんのお力いただいて、直していただいたところはありがたいなと思っております。

とりとめのない意見ですけども、トライアスロン実行委員で出させて頂いてますが、お宮の宮司を務めさせていただいておりますので、お宮でトライアスロンして頂いておりますので、トライアスロ

ンの委員もさせて頂いているんですが、今回、四国放送、徳島新聞で出させて頂いたように、うちのお宮の太鼓若連中が、町内の若連中が明治神宮でちょうさ（太鼓屋台）を披露と言うことが決まりました、日本のお祭りの三つぐらいに選ばれるらしいんですけども、それに選ばれたみたいで、日程なんかはまだ決定しておりませんが、先程おっしゃっておった四国・徳島はここらにあるんですよというのをしっかりPRしていきたいと思いますので、ご後援よろしく願いいたします。

（J委員）

よろしく願い致します。Jです。知事さんには全国知事会長さんを引き受けられて本当におめでとうございます。そしてまた、大変忙しくなると思うんですけども、どうぞ徳島のこともしっかりとよろしく願いいたします。B委員さんが今年受賞になられて、ほんとに、今までの活躍が報いられたのかなと思いました。おめでとうございます。

それとですね、大雨だったか台風だったかちょっと私忘れたんですけども、朝早くですね、空港の方へ出かけることがございまして、行ってましたら、ちょうど道路の真ん中に石が落ちてまして、行き過ぎてよかったんですけども、後続の人が事故起こしたらいかんと思ひまして、石をのけようとしてたら、1台反対側から車がきまして、ふと見たら、徳島県と書いてあるんですね。これは土木関係の方だと思って、降りて、いきすぎるのかなあと思ひたら、降りてこられて、どうかなされましたか何か不具合がありましたかと聞いてくださって、石をのけようとしてるとこなんですよ、とお話ししたら、お互いに気をつけていきましょうねということで、そういう朝早くからですね、道路事情を見回ってくださってありがたいなと思ひました。

それからですね、今日ちょっと宣伝になるんですけども、パンフレットを2つ用意させていただいたんですが、これが今月の9月の8日にあるんですけども、私もお隣のI委員さんでは無いけど、それに近い年齢になりまして、お稽古事を初めましてですね。〇〇先生にお世話なってるんですけども、9月の25日にですか、東京の方で、阿南市の県人会というか、そういうところにお声がかかりまして、この度、行くんですけども、東京で3年、今年で4年目になるんですかね、那賀町の映画、出身是那賀町ではないんですが、空き家ということで探していただいて、そして、そこで三味線とかをいろんなことを教えながら、東京と徳島を行き来しながら、いろんなコンサートを両方でやっております、来年のことをいうと鬼が笑うんですけども、現在の阿波銀ホールですかね、そこで開催させていただき運びとなりまして、そういった「まち」とか「賑わい」とか地方創生の役になっているのではないかと、とにかく三味線を少しでも多くの方にわかっていただきたいな、楽しんでいただきたいということで、こういう活動をしておりますので、また、知事さんどうぞよろしく願いいたします。

それとですね、私も林業やっておりますので、ちょっと早口で時間押してと思うので、説明させていただくんですけども、この資料をみさせていただいた中で、私も美しく豊かな自然、持続可能な林業とか、健康で豊かな自然を維持する、とにかくそっちの方へ話がなればいいなと常々思っているところでありまして、具体的に、これからいろんな環境税とか入ってくるんですけども、具体的な対策があればですね、計画とかがあればお知らせ、お示しして頂きたいなと思ひました。先日、会で平井さんと会うことがありまして、その資料の中で新人研修ということが目に飛び込んで参りました。以前は1年から3年位の方が研修で、いろんなところへ出かけていたんですけども、林業の方でも、夏場に植え付けをするとか、下草を刈るということは、やっぱり、現場の人と話しても、ものすごく大変な事なんですね。私もやったことあるんですけども、一番しんどい仕事なんですよ。なので、やはり活着率がすごくいいというお話を聞いているんですけども、やはり人間あつての植え付けでございまして、その辺のところも、やはり、もう少し時期をずらしていただければほんとにありがたい、

まだ歳とったものが長年、この間も面白くいうんですが、塩を食べれるからまあまあ辛抱できるけども、若い人は辛抱できんよという話を聞きましたのでね、多分若い方もたくさんは入られると思うので、そういう時期的なことを少しお考えいただいたらありがたいなと思いました。

それとですね、海部林業に、コリキ林業というのがございまして、広葉樹で薪づくりとか、京阪神に送るためにいろんな工夫をされている資料を読みました。それで私たちも、作業道を抜く時に教えていただいたことは、葉っぱをヒントにそれから考えていくと、つけれるとこ、つけれないとこがあると十分承知しておりますので、つけれるところはそういうのをちゃんと抜いていただいてですね、いろんな生産性を上げるとか、効率を上げるとかいう方向に向いて、とにかく崩してほしくないんですよ。今たくさん崩れてますので、そういうことも、もう一回仕切り直しして、見直ししてどういうものがいいかという提供もしていただきたいなと。

次にちょっとお話しさせていただきたいのは、これ自伐協っていうのが、全国で組織がありまして、私のところも家族でやっているわけなんですけども、もうすぐなんですけど、いろんな方から今まで40年間培ってきたことをですね、若い人に伝えるために、そういう学校というか塾というか開いたらどうかと、いうお話が出てきましてですね。今年、これからやろうかなと思っております。ほんとに来てくださる方があまり負担のないような、しっかり自分の技術をもっと上へあげれたり、自然を守るためのいろんな方策、知恵っていうものも授業の内容に入れましてですね、しっかり人づくりの一環になれるような感じで、今年、これからやろうとしておりますので、県の方にもご指導、またご協力をいただきましてですね、また、補助がいただけるのであれば、私にでなくて、来て下さる方にそういう風なことがあれば、ほんとにありがたいなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それとですね、先ほど、へき地医療の件が、話が出てきたんですけども、那賀町の上那賀病院なんですけれども、赤字はもとより、なかなか看護師さんが来てくださらないというふうなことで、町長さんも、だいぶお骨折りをいただいたんですけども、やはり、いろんな課題があるかと思っておりますので、中でもっと精査していただいて、できるだけ来て下さるようにということで、なかなか難しいことなんですけども、それをクリアしないと、へき地医療というのは上向いていきませんので、どうぞ、よろしく願いいたします。

(K委員)

椿泊漁協から来ましたKです。よろしく願いいたします。

まずは漁業に限らず、農業林業でも同じだと思いますが、後継者問題についてです。今までは実家が漁業しているから漁師になるという流れでしたが、漁業アカデミーは、漁業に携わってみたいと思う人に、チャンスを与えてくれ、手助けしてくれる良い取り組みだと思います。現在、当漁協におきましては、親方指導のもと、1名がはえ縄漁業の研修を行っていて、将来的には独立し、経営していけるよう、日々、勉強しているところです。同じ魚種の組合員やそうでない人との交流もできていますし、イベントにも参加して、街にも馴染んできています。ただ、研修生が、独立して生計を立てるまでには時間がかかりますので、県や市の支援は欠かせません。問題のひとつは、住居です。町内にはアパートなどありません。今いる研修生は、借家を借りているのですが、もし、次に、研修生を受け入れるとなれば、すぐに住める物件はありません。多少なりとも手入れをしなければ、快適な暮らしができません。様々なご支援をしてくださり、とてもありがたいと思っていますが、後継者確保のために、さらなるご協力をお願いしたいと思います。

次に、かもだ岬温泉に関してなんですけど、皆さんからはすごく眺めがいいし、温泉もいいよと言ってくれています。私も行ったことがありますけど、確かにいい温泉だと思っています。でも、この道

のりが大変で、対向車とすれ違うのが困難な箇所が多々あり、高齢の方も含めてバックが苦手な方は、かなり苦勞する場合があります。温泉の利用客が減っていると聞いていますので、せめて対向しにくい道路の幅を、少しでも拡張していただけたら、もっと温泉に行こうと思う人が増えるのではないのでしょうか。それで利用者が増えれば、施設のかもだカフェでご飯を食べて帰ろうかという人も増えて、名物のしらす丼、阿南丼などの地元の食材を使った料理の需要も伸びるのではないかと考えております。簡単ではございますが、以上です。

(L委員)

Lでございます。皆様の話が本当に私の目を広げさせてくれますので、ゆっくり聞いているうちに、何を話すればいいのかとと思っているんですけども、いろんな話を聞く度に、文化は後からやってくるというのを常々思ってしまいます。文化は後からなのかもしれないんですけども、今、公共の文化施設のやっていることというのは、もちろん、文化というのが人生の彩りでだったり、日々の生活の慰めだったりすることは確かなんですけども、地域の課題を解決する文化事業をしなければならないというのが、今の流れだと思えます。私たちの団体の目標は、文化芸術事業を通した、豊かな町づくりを目的にしているんですけども、先日、この土曜日なんですけども、みんなでピアノ物語という催し物を20年目になりますけども、終えてきました。当初は、参加者が少なくて、30名位、しかも、小学生から参加できるんですけども、小学生がとても多くて、中高生が、なかなか増えてこないという状況が10年ぐらい続きました。中高生まで、中学生、高校生までピアノを続けるのは難しいのかなと憂慮していたんですけども、最近、二日間にわたるピアノ物語は、133組の出演でしたが、中学生、高校生がほんとに増えてきて、しかも、小学生高学年になると、制限時間いっぱい10分なんですけども、大きな曲を弾けるようになってきて、本当に、20年続けてきて、育ってきたなと思っていますし、音大生もいますし、育ってきたことを実感しますし、もちろん、その方々が、音楽家にならなくなったとしても、そのために懸命に練習したり、大きなホールで演奏してみるという時間を持てたということが、彼ら彼女たちの心の支えになるのではないかなとっております。その他に、これは、元々、みんなでピアノ物語は、夢ホールではニューヨーク・スター・ウェイという、近くではなかなか、その当時はなかったピアノなので、著名なピアノ演奏家が弾くというだけでなく、みんなで引いてみましょう、みんなに聞いていただきましょうというのを目的に始めました。これは、20年続きましたが、最近の演奏会では、5年になりますけども、子供のための音楽会というのを年2回しています。大体の演奏会は、未就学児のお断り、小さなお子様が入れないというコンサートがありますが、子供を抱えていると演奏会にいけないというような疎外感を持ったお母さんが、若いお母さんたちもありました。やっぱり、子供を連れて行けるような演奏会があればなという声もありましたので、0-3歳無料の0歳から入れる演奏会を催しました。大体、小さな子供達の演奏会というのは、女性の演奏家が多くて、ママと子供のためのとか、歌われているんですけども、1番最初は、音楽パパという男性ばかりの出演者で始めました。そうすると、お父さんたちも、お父さんていうのもおかしいですが、子供とご家族、おじいちゃんおばあちゃんも含めたご家族でやってきて頂ける演奏会へと巣立ってきました。私たちの演奏会は、常になにか目的があって、これなんとかしたいなと思って作ってきた演奏ばかりが、10本ほどやっております。何かそれで、地域の問題が解決できたかどうかは、心もとないんですけども、ただチケットが売れる催し物、今、チケット売れる催し物というのは、60代、70代の時間とお金を自由に動かすことができる方々のためになってしまいうんですけども、なかなか大変ではあるんですけども、地域の方々の課題を何とか解決できる事業を行っています。文化は、ほんとに最後、先にも言ったとおり、文化は後から語られるんですけども、公共文化施設の使命が、課題を解決するた

めの施設であるならば、文化という手法も使って、地域の課題の問題を解決できると思っていますので、これから、ひょっとして市民会館が県民会館となって、阿南市にできるのであれば、そこそこ、県南の方にもいろいろホールがあるんですけども、楽しむためのホールというだけでなく、地域の課題を解決することできる施設になるという位置づけで、新しいホールに注目していただけたらと嬉しいなと思います。

もう二つだけ、今日持ってきましたチラシは、ハワイエと言うロビーで行っているお茶付の演奏会です。これも様々の理由で、ホールでの演奏会が少なくなってきた、阿南市文化会館に行く機会が減ったわってというのが一つ、ホールは、階段の客席なので、階段がちょっと辛い、お手洗に行くのも階段を上ったり降りたりするのが辛いというお話もあったので、ロビーで、階段がない段差がないところで行う演奏会も行っています。このチラシの写真を飾っているのは、女性と男性が写っていますけども、女の子は阿南市出身の、アコーディオン弾いてるのは、マケドニアの方です。とても国際色豊かな演奏通会をロビーで行います。もう一つ、阿南市とは関係ないんですけども、徳島市出身でギタリストがいます。今日、7時から、テレビ「あいつ今何してる」という番組に出演します。どうぞ、見てあげてください。以上です

(M委員)

やんちゃな70歳、地下足袋王子でございます。8月11日知事さんと一緒に、剣山山頂で、阿波踊りを踊らせていただきました。大変光栄でした。ありがとうございます。また、岡田局長さんにおかれましても、厳しいといたしますか、1番楽なルートでしたけれども、剣山へ登りました。本当にお疲れ様でございました。

私、今日ですね、長安ロダム湖畔に整備されている、長安ロダム資料館、別名ビーバー館とも呼ばれておりますけれども、その有効活用を、是非、お願いしたいということで、現在10時から16時まで、定休日が月曜日でございますけども、開けております。ドライバーや旅行者のトイレ休憩の施設としても活用されている場所でございます。私、今年から指定管理を受けさせていただきまして、2年という期限でございますけども、今トイレ掃除とかやらせていただいております。一般のお客様から、アンケートをとったらどうかなということで、アンケートを4月からとらせていただいております。一般のお客様のご要望はですね、地元特産品などお土産の販売、センチュリーランとかそういう時の休憩所とかになったり、活用されておりますので、せめてそういう時期にでも、地元の物産などを置ければいいんじゃないかなと、少し軽食の提供も是非していただきたいとアンケートに、声が非常に寄せられておりますので、長安ロダム資料館の有効活用について、ご検討を是非お願い致したいと思っております。私も契約は2年間で来年までしかないんですね、是非早くに。知事さん、全国会長さんおめでとうございます。よろしくお願いを致したいと思っております。

先ほど、G委員からお話しありました生物多様性のお取り組み、私の方「ファガスの森高城」は、生物の宝庫でございます。石鎚サンショウウオがぎょうさん谷におりますので、G委員、ご利用いただければと思います。今、剣山スーパー林道が、台風10号の影響で寸断されておまして、まだ、全て開通しておりません。阿南市の方から是非、お客さんは阿南市の方からどんどんと「ファガスの森高城」へということをお願いを申し上げまして、終わらせていただきます。

(N委員)

海陽町から参りました。Nと申します。どうぞ、よろしくお願いたします。私は、海陽町に地域おこし協力隊として、関東から移住しまして、来月で2年間がたつところです。現在は、竹ヶ島海域

公園魅力化事業ということで、竹ヶ島の島民の方々や宍喰漁協の皆さん、後は、竹ヶ島にあります、海陽自然博物館マリンジャムをメインに、そちらの方々と一緒に活動させていただいております。今は、私自身が町内の海の生き物とか自然というものを利用して、竹ヶ島も非常に珍しい生き物がたくさんいるということで、地域の資源を観光客の方々に知っていただこうと、竹ヶ島の磯観光などのイベントを行っておりますが、その上でも、まだまだ課題が見えているところでございます。移住しまして、まだ2年ということで、徳島県内のことを、本日、いろんな分野の方々がいらっしゃるということで、たくさん勉強させていただいております。本日は、3点、私の視点で、ちょっと感じたことをお話しさせていただけたらと思っております。

まず、一つ目なんですけども、「世界を魅了する観光地域づくり」ということで、私が現在拠点の一つとしておりますマリンジャムでは、竹ヶ島の海をですね、カヤックであったりですとか、サップと呼ばれるスタンドアップパドル、シュノーケリングで、海を楽しむことができまして、さらにですね、平成29年度から島の小さな水族館としまして竹ヶ島周辺の海域で見られる生き物を展示した水槽展示を行っております。こちらの海は県内の海でもトップクラスの海域を誇っているため、知名度が高いんだろうなと思っておりましたけども、実際に来ているお客様からアンケートを取ったりとか、お話をさせていただきますと、市内の方でもご存じない方、まだまだ知らない方がたくさんいらっしゃいます。その中でも、ゴールデンウィークとか、お盆休みだったりとか、長期休みを利用して全国のお遍路さんだったりとか、バックパッカーの方、海外の方もなんですけども、来館に関して、お問い合わせを多く頂きます。このように、海陽町だけでも、海だけに限らず、海・山・川と言う全てのフィールドがありまして、県南部自体もこのようなフィールドだったり、観光地だったり、あると思いますので、これら観光資源を一つ、一つずつ、つながりをどんどん作っていくことで、南部地域の活性化に寄与することができるのではないかと感じております。

ただ、今後、DMOを進めていく点で、今期待されている高速道路だったりとか、県南部で走ります、DMVなどを用いまして観光客の皆様が利用しやすい交通づくりを目指すことが重要でないかと思っております。

二つ目といたしまして、「豊かな自然と調和した地域づくり」ということで、同じくマリンジャムという施設なんですけども、観光だけでなく、地域の資源の学習拠点のしても発展途中で、進めております。実際に、ここの竹ヶ島の地域につきまして、牟岐町の千年サンゴもなんですけども、別の種類の珊瑚もたくさん生息している地域でして、半世紀位前から、サンゴの減少が見られておりますので、2004年から旧宍喰町時代からと思うんですけども、その時代の小学生達が漁師さんとサンゴの移植をして、サンゴを元に戻していこうという活動を行っているんですけども、今年は、旧宍喰地区に加えまして、海部、海南の地区の中学生の子供たちにサンゴの移植させて頂くことができました。このように、サンゴを保全するだけでなく、地域の特定の資源が存在するという事は、それぞれの地区にもあると思うんですけども、それぞれの資源をですね、資源が存在するという事を、地域住民のそれぞれの方のお仕事、専門分野が活かされていくということで、今回の移植のように、漁師の方々、地元の大人が先生になって、子供たちにもものとか、自然を伝えていくということにもつながるので、地域の交流としても期待できるかと思っております。また、今後はですね、私のおります海だけでなく、山や川、食文化なども非常に豊かだと思いますので、このようなフィールドでも一緒になって、活動できる場所が作っていければなと思っております。

最後になりますが、「賑わいと笑顔あふれる地域づくり」につきまして、今回、こちらで、こうして私がお話しさせていただいているのも、温かい町民の方々に出会って、皆さんに助けられて生活できているためだと痛感しております。また、その中で、いろいろな方とお話しするのが好きなんです

けども、いろいろ話していますと、意外にも、同世代の移住者の方だったりとか、大学の進学とかを経て、地元で就労しました方とか、多くいらっしゃるのを見てきました。でも、一方、地域の伝統行事だったりとか、文化を伝えたいという方とお会いする機会がありまして、そんな方々をつなげていきたいということから、海陽町内で、有志の活動としまして、「わかいし（若者）カフェ」というイベントをスタッフとして、交流の場をつくる活動を、現在させて行わせて頂いております。この活動は、月に1回、イベントを行って、地域の方に、好きなときに自由に参加してもらおう場となっております。このような活動から私たちの世代に「わかいし（若者）カフェ」の活動で、20代、30代の方を中心として、若者が集う場を作ってるんですけども、私たちの世代が、今後、次世代を担っていくということで、地元の方との関わりとか連携は外せないと思っています。海陽町意外でも、県内では、上勝町ですとか、石井町とか青年会がありまして、そのような方々がイベントを支えているようなんですけども、海陽町におきましては、海陽町なりの人々の出会いを作っているところです。このような出会いをですね、今後明日にでも起こると言われております南海トラフ大地震への対策だったりとか、昨日からの九州の豪雨のような、そういった災害に対しても、地域の方が少しでもつながって、情報共有を図ってですね、お互いを守って、生活できたらいいなと思っています。以上でございます。

（〇委員）

最後になりましたよろしくお願ひいたします。まずは、道のことについてです。

県の取り組みの中にも四国横断自動車道、阿南安芸自動車道の整備促進ということで、「四国8の字ネットワーク形成」と、その整備促進に取り組みますと書いてくださっております。私は、Bさんと一緒に、四国は1つ阿波の道女性フォーラムのメンバーの一人でもございまして、11月2日の土曜日に、阿南市情報文化センターコスモホールにおきまして、元国土交通省機関の大石久和さんをお招きして、自治フォーラムを開催するようになっておりまして、このフォーラムに対しましては、大変県や国の皆様にはお力を入れていただきまして、大変感謝をしております。その女性フォーラムの全国大会が、毎年ありまして、各県の各グループが要望するのですが、十数年、毎年行かせていただいているんですが、最初の頃は、66団体ぐらいあったグループが、今年の1月の25、26に行ったときには、22団体になっておりまして、その内容が、道ができましたありがとう、というようなお礼のグループの発表だったりしてますので、本当に必要な道というのは、声を上げて要望すればつけてくれるんだなど、行くたびに思いますので、いろんな団体の方もそれを願っているとしますので、頑張ってPRとかをしていけたらなと思いました。

それともう一つ、また道のことなんですけども、一般の国道の、県道との整備促進の中で、これまでの取り組みという中に、阿南小松島線の黒河バイパスの完成供用と言うことで、これまでに仕上がったということで書いていただいております。この加茂町から、阿瀬比を通って那賀町に抜けていく道は、長年放置されていた、橋脚の上に橋をつけてくださいと言う住民の熱い思いに答えていただいて、黒河バイパスができた経過もがあるので、瀬にインターが付くというようなお話も聞きましたので、徳島から那賀町に行く道として、黒河バイパス、せっかくできた住民の思いのこの黒河バイパスへの道を、仕上げていただきたいと思います。

そして、先ほどから観光についてたくさんの委員から、意見があったんですけども、いかにして県南に、観光の人口を多くしようかなと思っているところにですね、都道府県別に見た日本人の観光客の数のデータみたいなのがちょうど目にしまして、残念ながら、高知県と徳島県は日本人の観光の中でも、11年からずっと後ろの方に入っております、観光地の人気があるところは、ほとんど決まっ

ているというのが現状なので、長いスパンを持って、観光戦略を練ることが必要だという風に、その記事にも書いてあったんです。それで、どうしてこの県南には、観光客が西ばかりに行って少ないんだらうと思ったら、PRがあまり上手でないのかな。徳島マラソンに毎年、私のJCの友達が小樽から来ている友達が徳島そごうの地下に行った時にですね、徳島市観光ステーションに置かれている「徳島あるでないで」という観光パンフレットを持っていて、その方は最初から、県南で観光しようと構えてくれたので、そうすると、このパンフレットには、東部とか西部ばかりで、県南エリアは少し、阿南市は、三つしか載ってませんでした。太龍寺のロープウェーと阿南遍路史跡ガイド、橘のお祭りのことが載ってたんですけども、やっぱり、PRが必要でないのかなと、そのときにも思いました。私の地域には、ちょうど若杉山の遺跡、深瀬町の遺跡、加茂の朱の遺跡とすごいのが出てきましたので、それも観光の目玉になるかなと思う中でですね、県南にはたくさんと、それ以外にも、みんなに知られてない、観光スポットがたくさんあるので、マップに載るようにするには、行政だけでなく、住民も全部巻き込んだ、取組が必要だと思いますので、先ほど、D委員さんとかほかの方も言われてましたように、四国の右下観光局とタッグを組んで、素晴らしい場所、右下は、素晴らしい機関としますので、是非とも、タッグを組んで、観光に力を入れていただきたいと思います。

先ほど言った、加茂谷には三つの遺跡ができてきたところで、加茂谷独自で、住民で勉強会をして、遺跡が物語になるような、なにか、観光の目玉になるようにということで、すでに9月の14日に勉強会をして、住民から盛り上げていくような動きもありますので、遺跡公園となるように、是非ともアドバイスとか、力を入れていただきたいと思います。

それと、鯉まつりの件なんです。ずっと知事さんにも鯉まつりにお越しいただいたんですけど、第30回がすんで、今年の第31回は、鯉だけ吊ってイベントができなかったんですけども、洪水とかで河原の整備が一番難しいということで、来年、第32回はするようになるんですが、今の場所では、前は深瀬の工事、堤防の工事があったので、業者さんたちが、お手伝いをいただいて、整備とかあったんですが、次、加茂谷中学校のグラウンドでしようかというような話になって、それって、那賀川町も那賀川中学校のグラウンドでお祭りしよるし、それって鯉まつりでないのと違うんっていうすごい悲しい結末のような意見も挙がってきているほど、今の青年団というか、実行委員会のメンバーも昔の方は、家庭をほっといてでも、鯉を吊るというような傾向があったんですが、今はもう男女共同参画、家に帰ったらゴミも出すし、男子は子守もするしというような家庭を大事にするような傾向もあって、家をほっといてまで、河原を整備するとかいうような時代でもないんですね。一週間前に、中学校のメンバーで鯉を吊ったとしても、水がでたら、整備をしてもすぐ形が崩れるということですね、実行委員会の中で、今、加茂の堤防を作っている朱の出た辺りで、来年は、国交省さんと、業者さんの方にもお手伝いいただいて、グラウンドではない場所、河原でしてみたいなという意見も出てますので、ご指導をお願いしたいと思います。

それと最後に、この間の台風で加茂谷中学校が浸かって、全国的にもニュースに出るんですが、いつも浸かるので、地元は覚悟してたんですが、停電に、15日の日になりまして、お盆の時ちょうど、法事とかいう人がおったりとかの時に、停電をしたんです。停電をするのはいつもなんですけど、もし、もっと大きい災害が出たときに、33ページに載ってたんですが、自立分散型電源の導入についてという、明るい施策が載ってたので、その分についてもお聞きしたかったのと、それと、36ページの人口減少に対応した小中一貫の教育の促進についてというようなところも詳しく聞きたいなと思ったんです。加茂谷中学校、他のところもそうですし、中学校と小学校も人数が少なく、場所が離れているんですね、小さいところは。そうすると、来年中学校に行く子が一人しかいない、二人しかいない、というのは、生徒が少なすぎて、野球部の子は、阿南一中に行く、剣道も阿南一中にいかない

ない、新体操が強い羽ノ浦中学に行く、というふうにみんな近隣に行ってしまうと、勉強をする子は東中学に行くので、来年は、加茂谷中学一人しか行く子がいないというような説とかもあって、グラウンドを共有したりとかいうような取組ができると少ない人数でも、活気のある教育ができるんじゃないかなと思ったりしてます。以上です。よろしくお願いします。

(南部総合県民局長)

はい、ありがとうございました。只今いただきましたご意見の中で、ご質問等が何点かございましたが、時間が押していますので、後ほど、事務局から個別に回答にさせていただきます。

本日は、管内の首長様にも出席して頂いておりますので、各首長様からもご発言をお願いします。

(海陽町長)

海陽町長の三浦でございます。いろいろとお世話になっていることたくさんあるんですけども、先程から皆様方から本当に貴重なご意見、ご提案いただいております、本当にありがとうございます。またですね。地元海陽町の方からは、N委員さんに、地域おこしで、海陽町の方に関東から移住して来て頂いております、先ほどありましたように竹ヶ島の海域の自然の再生の魅力アップとすることに、ご尽力いただいていることに、本当に感謝しております。そして、N委員さんの方から、「世界を魅了する観光地域づくり」ということで、観光客が南部の観光地に立ち寄りやすい環境づくりを進めることについて、そして、また「豊かな自然と調和した資源づくり」の観光資源のことと、もう一点、大きくは、若者の情報共有による強靱、安心の地域づくり、大きく2点のご提案をして頂いたと認識を致しております。

まず、1点目でございますが、先日、4月24日から三日間、竹ヶ島の海域公園に群生するエダミドリイシサンゴの産卵を、世界で初めて夜間海中から観察するというツアーをN委員さんのいる海洋自然博物館マリンジャムという所で企画をしていただいたところでございます。これはですね。これまで、地元の方々が先程もありましたけれども、中心となってサンゴの保全に取り組んで、そしてまた、サンゴが産卵する確率の高い日というのを予想できるようになったということで、観光客にも海陽町での神秘的なシーンを間近で楽しんでいただける、このようなことができる、非常にコンパクトでマニアックな先程もありましたように、そのような貴重なツアーでありまして、N委員さんを初めとしまして、マリンジャムの職員が知恵を絞って実現したところでございます。先程の千年サンゴというのがありましたけれども、それに匹敵するようなサンゴの群生というのがありまして、これが船の中から見えるということでありまして、是非、皆様も立ち寄ればと思っておりますが、このような海陽町の環境資源というのにはたくさんございまして、まだまだ、発掘途上というところであると思っております。まず、N委員さんからご提案のありました、今後、海洋資源だけでなく、山とか川とか食、文化あらゆる海陽町の宝物にスパイスを与えていって、まずは、地元の住民が魅力を再認識していただいて、観光客にも魅力を体感していただけるような場所づくり、それを増やしていければというふうに思っております。

また、今後、運行を予定しております世界初の線路と道路を走るDMVではありますが、その運行を機に、この魅力的な観光スポットというのを公共交通で、もうちょっとつないでいけるように、観光客が海陽町を満喫できるように、JR牟岐線とか、また、南部バス、高知東部交通とも連携しながら、また、地元の町営バスとか、レンタサイクル等々も利用しながら、また、声を上げて行けば海部野根道路も無事にできるというふうになりましたので、その辺も将来的には活用していけるというふうに、皆さんの方から出ておりますDMOを、それ方ももうちょっとスピードアップしていけるように行政と

しても、ケツを叩いて行って、新たな人の流れを作っていけるように頑張っていきたいと思っております。

まだ続いて、2点目の若者の情報共有による「強靱・安心を実現する地域づくり」についてというところでございますが、南海トラフの巨大地震というのが発生すれば、海陽町で最大で18.4メートルの津波が来ると想定されております。海陽町は喫緊の課題と認識しております。また、台風の豪雨災害につきましても、ちょうどよくテレビに出てくるんですけども、非常に危惧をしているところでございまして、今年度から国の方でも避難勧告に関するガイドラインと言うのも、5段階の警戒レベルを発令して住民の避難を促すということとなっております。そのような中で、海陽町、毎年12月の第3週の日曜日に南海トラフの巨大地震を想定して津波の避難訓練とか、その各種地域の自主防災組織の各種の訓練というのを実施しております。ただ、若い世代の避難訓練の参加者が非常に少なく、地元の消防団員の若手というのは、避難訓練参加して頂けるんですけども、それ以外の若手というのはあまり参加をしていただけないというのが現状でありまして、N委員さん、「わかいし（若者）カフェ」に若者がたくさん集まってきているということですので、地元消防団員にも加入もしていただいて、移住者のお知り合いも含めて、そういう訓練とかにも参加していただけるようにお声掛けをいただければ誠にありがたいと思います。また、その上で、若者が得意とする、SNSなどの活用などいろんなツールを使って情報発信をしていければ、また、海陽町訪れる観光客とか移住者も防災避難情報とかその辺もキャッチできると思います。その辺もまず、地元消防団に入っただいて、いろんな形で若い世代に情報発信していただければと幸いであると思っております。行政としましては、海部川とか宍喰川とか最新の洪水のハザードマップも盛り込んだ海陽町の防災のしおりの改定の作業も進めておりまして、各地域に配布するのはもちろんでありますけども、スマホなどでも閲覧できるように考えて行っております。徳島県の防災欄とかハザードマップなどのページにリンクもできるようにして、若い世代の情報をキャッチできるように進めてまいりたいと思っております。

長くなりましたけども、海陽町、発展途上である末端の海陽町がですね、一つずつ課題解決をしていけることによりまして、また、県南部の発展にもつながって行くと思っておりますので、是非、がんばって参りますので、委員の皆様、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

（美波町長）

美波町の影治です。よろしくお願いいたします。今回、令和に入って、新しい時代の中での新しい計画と言うことで、見させていただいて、非常に、基本戦略もきれいにまとめられ、これを実践していくことによって、美波町を始め、県南5市町が上向いていくのではないかと思っております。私たちの町からも3人の委員がこられてまして、それぞれのご意見をいただいたことにつきましては、町としてしっかりと取り組んでいただきます。

今日は、この場を借りて御礼とご報告、そしてまたお願いということで、実はあの映画の話昨年からお話をしていて、「波乗りオフィスへようこそ」が、今年の4月の5日から6月6日までということで、徳島のイオンシネマで開催させていただいて、皆様方、たくさん観ていただきました。イオンシネマ2ヶ月で、5400人が入られたそうです。その後、平行するような形で、東京の有楽町スバル座であったり、愛知県であったり、また、大阪で上映させていただいて、期間はそれぞれ違うんですけども、トータルで7600の方に観ていただきました。県南をPRできてよかったなと本当に思っているところでございます。また、劇場公開というのが終わりましたも、2年間かけて、それぞれ地方巡業と言うんですか、そういう形でやらせていただくと聞いております。この阿南市を中心とした4町でございますけども、それぞれの街で上映会をしていただけるというようなことで、計画して頂いて

ておりますので、それぞれの市町で、また広報があるかと思いますので、まだ観られてない方だったりとか、いらっしゃいましたらお誘い合わせの上、観ていただけたらと思っております。県の皆様には、色々と物心両面に、お世話なりまして、誠にありがとうございました。

(牟岐町長)

牟岐町、杵富でございます。よろしく申し上げます。私の方から県立海部病院の機能強化と阿南安芸自動車道の整備促進について、発言させていただきます。

徳島県立海部病院におきましては、平成29年5月の新病院開院により、ドクターヘリが離発着できる屋上ヘリポートや免震構造の採用、病室を始め、快適な療養環境の整備やマルチスライドCTなど、地域中核病院としての整備を図るとともに、ドクターヘリによる高次医療機関への迅速な施設間輸送、スマートホンを用いた遠隔診断支援システム、K-サポートシステム導入、当システムの消防への範囲拡大など、救急医療体制の充実などを図っていただき、誠にありがとうございます。また、病院内に設置してしてございます徳島大学地域医療研究センターを核としまして、今後の地域医療を担う期待されています総合診療医の育成にも力をいただき、徳島大学病院や県南の医療機関と連携し、特色ある研修をしていただいておりますことを誠にありがとうございます。これまでのご努力に感謝するとともに、本日、地域医療守る会、副会長も参加されておりますが、今後とも地域医療の充実のためにご支援ご協力をよろしくお願いいたします

次に、阿南安芸自動車道の整備促進についてでございます。平時は、救急医療施設の搬送時間の短縮、災害時は、災害道路の輸送道路となる命の道として、県南地域の経済活動観光振興に大きく寄与する道路であることから、徳島県におきましても、これまで国につきましても強く働きかけていただきました。道路がつながってこそ、その機能を最大限発揮することから、整備促進に向け、なお一層のご支援ご協力を進めさせていただきます。

I委員さんからもお提言ございました、国道脇の草の生えていることでございます。これは、政権交代の時に事業仕分けで削られて以降、未だに、予算が元に戻っておりませんので、道路関連予算の拡大、全体の拡大を国のほうに強く働きかけていただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

(那賀町長)

那賀町でございます。県の振興計画の概要等を見せていただいて、やはり、地域振興におけるの基本は、安全で安心な地域と言うことに基本になるかと思っております。那賀町におきましては、県の格別のご支援いただきまして、床上浸水対策、順調に進んでおります。それに合わせて、長安口ダムの新しいゲート、今回の台風でも十分その効果を発揮したと認識しております。今後におきまして、できるだけの対応をお願い申し上げます。おそらく、それが今以上に稼働しますと、かなりの洪水の被害を防げると今回の台風で自信を持っております。

それで、そういった関係で先ほど、H委員さんからも、もみじ川温泉の観光客の話も出ましたが、昨日もお願いしたんですが、国の方も河川局が今後において、ダムの改造と言うことも含むんですが、ダム観光と言う方向に力点を置いていくということをお話を伺いました。予算もつくんではないかと思っております。そういったことで那賀町にある川口ダムの自然ミュージアム、長安口ダムの世界で初めての工法、それに合わせてベルトコンベヤでの砂利の堆積撤去と、本当に新しい工法を取り入れていただいて、そして、また、今回の河川整備計画の変更で、小見野々ダムの民間のダムまで改造と計画していただきまして、これらを含めまして、ダム観光ツアーが将来可能でないかと那賀町といたしましても想定しております。

M委員さんからのビーバー館の活用においても、長安口ダムの改造と合わせて国の方にご要望させて頂き、川まちづくりの事業と併せて県の方にもご協議させていただいて、ビーバー館の活用方法について、先程のM委員の意見も取り入れながら協議させていただきたいと思っております。

それから、J委員さんからも森林関係のお話と病院関係なんですけど、今年から森林環境贈与税で那賀町最初7千7百万円とお聞きしておりますが、これにつきましては、本年度においては、やはり経営管理システム、これが新しくなりました、法的な対応をしろと言う形を作られましたので、これについては、環境譲与税の活用ということも含めて、1市4町で、それに対応する協議会を、先般、設立致しました。その中で色々と森林管理者、または、林家の皆様からのご意向をお聞きし、それにより対応して参りたいと思っております。

自伐林業というお話が出たんですけども、やはりJ委員さんのいうように、そういった自伐林業をやっていくためには、これまでの地道な基礎があつてのことであろうかと思えます。誰もが簡単にできるものではないとは思っておりますので、そういったことも含めて、この環境贈与税を対応させていただいて、また、初年度においては、ほとんど100%ソフト事業、そういったものに計画しております。次期からはハードにも使えるかどうか、色々と検討しながら進めて参りたいと思えます。協議会の運営に、かなり財源も必要となってきますので、それも含めて活用させて参ります。

病院の看護師さんの話が出ましたが、これ林業の従事者の確保と合わせてなんですけど、那賀町としても、住宅の確保を含めて対応しているんですけど、お医者さんは、おかげで飯泉知事さんが地域枠の制度を作って頂いて、その方々が現場に出る時期がきまして、那賀町としても、今年、多くのお医者様を派遣していただきました。誠にありがとうございます。今後におきましては、お聞きしますと、この地域枠の先生方が、順次、現場に出られると言うことで、かなり対応できるんじゃないかとお話を聞いておりますが、やはり看護師さんについては、知事さんにもお願いしておるんですけども、看護師さんも地域枠のような形ができないかとお話もさせていただいておりますが、ただ、横に阿南市長さんもおいでですが、阿南医療センターでも、私の知り合いから聞くとところによると、中央病院の看護師さん、共栄病院の看護師さんと一緒になるとチーム力がちょっと色々出てくるらしいんですね。特に、那賀町の上那賀病院でも、看護師さんは募集したら来てはいただけるんですけども、なかなか、従来の看護婦さんと新しい看護師さんのチームプレイというのがちょっとずれますと、ちょっと上手くないかという点もあるんでなかろうかと思えます。できるだけ町としましては、カバーできるように対応していきたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。私の方からは、以上です。

(阿南市長)

はい、もう時間がございませんので簡潔に申し上げます。答えをいろいろしたいんですが、1つだけですね。これ、また箱物かと言われるんですけども、やはり、阿南に、県南にしましても、合併して夢ホールが600席ちょっと、コスモホールの550席で、極めて中途半端でございます。ここで、1500人規模の施設は必要ではないかと思っております。しかしまた箱物と言うことになると、批判も出てくることも想定されておりますけども、文化を継承していくということになると、やっぱり1500席ぐらいの箱物がなければなかなかやっていけないと、継続していけないと思えます。ましてや、日本で47都道府県で4番目に人口の少ない飯泉知事が全国知事会の会長になったんですから、これみなさん画期的なことなんですけども、高知は70万人切ったんですよ人口。しかし、全国4番目に人口の少ない知事が全国の知事会の会長になった。これは、知事さん歴史の必然でありまして、人口の少ないところを助けるために、全国知事会の会長になったと私はそう認識しております。昔は私が市長

になった時は、知事会の事務局長は中川さんで、徳島県で勤務された方が事務局長だったんです。市長会は荒木さん、この方も徳島で勤務した人、今度は、知事会の会長が県知事になったと。これは素晴らしいことですよ。安倍総理とサシで話ができるんですから。私が申し上げたいのは、何とか県が定住圏を利用して、全国の定住圏いくらあるのかなあ、その中で、それぞれの定住圏で目玉政策を上げてこいと、その中で1つ選択してやると、いう中に県、南部定住圏の県民会館と言うのを、是非、やってもらえたらありがたい。どこでもいいですよ。はっきり言いますと、阿南市でなくてもいいですよ。1500席規模のものがあればいいんです。それだけ値打ちがあるもんだと思うんです。是非、政策的に検討していただけたらと思います。以上です

(知事)

まずは、冒頭少し、遅参しまして、大変失礼を致しました。委員の皆様方から、それぞれの地域の課題について、あるいは、これからの大きな、例えば、インバウンドなどのヒント、こうしたところをいただいたところでございます。まずは、心から感謝を申し上げたいと思います。時間も既に過ぎているところでありますが、何点かご質問もありましたので、お答えをしておきたいと思います。

まず、A委員さんの方から、せっかくDMVできるんだし、地域公共交通機関、せめて、ネットワークのことについて、タスクホースを作ったらどうだろうかと、大変時宜を得た話でございまして、こうしたものについて、直ちに取り組みたいと考えております。また、体育館の冷暖房化、ここについては、私の公約、マニフェストの中にも入れてあることなんですが、やはり、平時の活用、これもしっかりと考える中で、さらに来年は、パラリンピックがありますから、障がい者スポーツ、こうした観点から、最初は、1校位をと、考えていたところではある訳なんですが、特別支援学校なども含める形で南海トラフ巨大地震を考える中で答えを出していければと考えております。

それから、F委員さんの方からは、南海トラフの臨時情報、ここに書いてないじゃないかという話の指摘をいただきました。これについては、県の方で有識者会議と言うものを立ち上げの中で、最終的な成案を見ていこうと、今年度中にやろうと言うことになっておりますので、ご指摘がありましたように、しっかりと、そういった点、成案が出来次第行いたいと思います。

それからJ委員さんの方から匠の技の話をいただきました。実は、我々、第一次産業、林業だけでなく、農業あるいは水産業、こうしたものについての匠の技を、第4次産業革命、IoT、ビッグデータ、AIこれを活用して、新規に入った、そうした、例えば、山武者の皆様であるとか、漁業アカデミー、林業アカデミーの皆さん方、あるいは、キュウリ塾の皆様方、こうした皆様に伝授することができればと、匠の皆様方のそういった知識をビッグデータ化したいとどんどん今進めているところであります。先程、自ら学校やっていこうと言う話もいただきました。場合によっては、林業アカデミーと一緒に組ませて頂く。今も支援をいただいていますけども、こういう形をとりながらJ委員さんを始めとする皆様のそうした知恵、経験といったものを、是非、ビッグデータ化をさせていただければと思いますので、ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

そしてL委員さんの方から「文化は後で来る」と、そして、地域課題の解決にという話があったんで、お子さん達の親御さんを、お子様つけてきてもいいですよというコンサート、実は、今、若手知事会が最初5名からスタート、40代知事から始まって、今では17名に、これがなっているところで、私も最長になって、何とか50代でがんばっているところではあるんですが、そういった中で、三重の鈴木知事さんの方からご提案があって、進めていこうと、17府県でやっていこうと、実はI LOVE 赤ちゃんプロジェクトと、つまり、今まで独身でおられた働く女性、例えば、キャリアウーマンでバリバリやっていたと、コンサートなんかも超一流聞いてたのよと、ところが結婚して子供生み育てた

と、とたんに、どこいってもダメと入れない、ものすごくストレスたまるわ、こうした話なんですね。こうした皆様方に、そのコンサートを聴きに行かれても、様々な展示見に行かれても、まず大丈夫ですよ、赤ちゃん泣いてください。それを、演奏家の皆様にもしっかりと理解してもらった上でやると。例えば、県の方でも当然、ステッカーを貼って、そのイベントに、赤ちゃんが入っているんですけど、5月の3日4日、オギャット21、この中で、ときわホールの中でコンサートをやるんですけども、ここは、お子さんを連れて来られて、泣いてもオーケーという形で、ここは、ファミリーで聴く、泣いても全然問題のない、個室も別にあるんですけども、こうしたプロジェクトをどんどん広げて、子育てをされている、特にお母様方のストレス解消、そうしたものもしっかりと取り組んでいきたいと考えておりますので、県民環境部の方ともぜひ連絡をとりあっていただけたらと思います。

最後に、〇委員さんの方からいただきました自立分散型どんな感じなんだろうかと言う話で、実は私、34都道府県、200の企業の自然エネルギー協議会の自然エネルギーの導入促進を図るということで、事務局長、孫正義さんにやってもらっているんですけどね。この会長ということもありまして、国に対して自然エネルギーをどんどん導入を、ヨーロッパに比べると、日本まだまだ低いですよ。ところが、今回、第5次の日本のエネルギー基本計画の中に、自然エネルギーを主力電源化するということが入っております。ということで、国もしっかりと自然エネルギーの導入促進していく方向に舵が切られました。つまり、原発が大変厳しい状況になるということになるんですね。ということで、北海道での今年の9月、胆振東部地震、ブラックアウトしちゃったんですね。北海道全土が停電になっちゃった。これは、電力を苫小牧のところで集中させてしまったんですね。これによってあれが起ったということがあって、やはり、自然エネルギーで各地域、地域ごとに発電をして蓄電をする。こうした形をやる。例えば、ソーラー、ご家庭の上にあるソーラーであったり、あるいは、ソーラーで発電をしている施設がかなりあるんですね。あるいは、中山間地域であれば、小水力こうしたものをしっかりと蓄電池の中に貯めることによって、平時、災害時、例えば、四国電力から電力供給がなくても自立していくことができる。昨今では、バイオマスも巨大なものが、阿南にできておりますが、津田にもできますが、あるいは、風力、これがちょうど名西地域、いわゆる勝名地域方にずっと出来上がってくるんですね。こういう形で、自然エネルギーを、それぞれの地域において、平時は業として、いざ発災したら、非常用電源として使う自律分散型、これを、自然エネルギー協議会で、国に進めておりますので、徳島県としてはそのモデルとして進めているところであります。先程書かれているのは、そうした意味。特に、家の屋根につけている太陽光が、買い取り義務がなくなるんですよ。その期限が切れるということがあって、これをそのまま、自家消費に使うだけではもったいないので、その地域全体を束ねることによって、バーチャル発電所にしていこうと、こうした案も、徳島から発案をして、自然エネルギー協議会を通して、国に、経産省の方にも提案をし、彼らもそうしたものについて本格的に考える、あるいは、具現化をするとそうした方向に進んで来ているところでありますので、関心を持っていただければと思います。

それぞれ貴重なご意見をいただいたところであります。しっかりと我々としても、咀嚼をさせて頂きますして、一つ一つ、県南地域をモデルに実証していければと、考えておりますので、これからもさらなるご提案、ご提言、よろしくごお願い申し上げまして、私からの最後のご挨拶とさせていただきます。本日は、本当にどうもありがとうございました。